

友のお供新聞

水戸RC
雑誌委員会

写真で振り返る

東京五輪とロータリー



ロータリーの友10月号の表紙

リオ五輪が幕を閉じ、五輪旗は2020年の開催地・東京に引き継がれました。ロータリアンもこれまでの五輪に関わってきました。その歴史を写真で振り返っています。

(●横組7P)

日本で開催された五輪は夏季、冬季を合わせると、3回あります。東京五輪では、「友」1964年10月号で大特集。五輪組織委員会会長の安川

★スターマンP.O.活動

2015年11月7日行われた国際ロータリー第2660地区IM第7組の基調講演で、NPO法人ロシナンテス理事長の川原尚行氏が、スターマンでの医療活動について話されています。

(■縦組4P)

★クラブを訪ねて

「クラブを訪ねて」のコーナーで、第2560地区(新潟県)の佐渡南RCが紹介されています。出席率一〇〇%の会員が半数以上、奉仕活動が盛んな楽しいクラブようです。

(■縦組9P)

★ポリオとの戦い

ポリオ撲滅ゾーンコードイネーターの坂本俊雄氏(東京八王子南RC)が、パキスタンでのポリオ現状を報告しています。アフガニスタンと国境を接するFATA地区が深刻のよう。

(●横組14P)

★サイパンで追悼式

サイパンRCと東京八王子南RCの会員が参列し、サイパンのバンザイクリフで追悼式が行われました。サイパンの戦いで亡くなった日本人は2万2000人

(●横組28P)

第五郎氏(東京RC)のほか、駒沢体育館の設計を手掛けた芦原義信会員(東京銀座RC)などのロータリアンが寄稿しています。札幌五輪では、全国のロータリアンの寄付により聖火台を真駒内屋外競技場に寄贈。札幌五輪のテーマ曲

の一つ「虹と雪のバラード」は札幌西RCの河野文一郎会員の作詞でした。長野五輪でも、第2600地区(長野県)長野オリ

子供たちが空中散歩

いわき勿来RCプレゼント



いわき勿来RCのイベント

いわき勿来RCの日の6月12日、いわき市内の河川敷で「なこそロータリー・バルーンフェスタ2016」が開かれ、福島県の子供たちに熱気球による空の旅をプレゼントしました。いわき市内には福島第一原子力発電所の事故の影響で避難生活を続けている子供たちも多く、思い出の一日を残したいと、NPO法人熱気球運営機構の協力

(●横組32P)

霞ヶ浦再生へ

玉造RCが10年前から取り組んでいる霞ヶ浦再生活動が紹介されています。

(■縦組28P)

ロータリーの友を読もう

「ロータリーの友」10月号の特集は、「写真で振り返る日本のオリンピックとロータリー」です。特集を読むと、ロータリアンが過去の五輪に深くかかわっていたことがよくわかります。

特に写真は、当時の様子を切り取っています。アジア初開催となった第18回オリンピック競技大会(東京五輪)は、開会式があった10月10日が後に「体育の日」となっています。当時のロータリアンにとっては3年前、東京で開かれた国際ロータリー年次大会に続く大きな国際行事だったようです。

各五輪では、競技会場だけでなく、全国各地のクラブで五輪支援が展開され、長野五輪では、須坂園芸高校を中心に第2600地区内のインターアクトクラブがガラス容器内で無菌状態で咲かせたリンドウを発砲スチロールの「スノーマン」の容器に入れ、選手村の各部屋にプレゼントしたそうです。(風彦)